

令和2年度 岐阜県立多治見高等学校 第2回 いじめ防止対策委員会 議事録

日時：令和3年2月17日（水）16:00

場所：多治見高等学校 校長室

出席者 第三者委員 弁護士 木下 貴子 様
臨床心理士 堀部 幸治 様
地域代表 児玉 直樹 様
保護者代表 後藤さつき 様
学校関係者 校長 教頭 生徒指導部長 各学年主任 教育相談担当

1. 開会あいさつ

鈴木 彰 校長

緊急事態宣言下ではあるが、個人情報が多いため会議を開かせていただいた。

今年度はコロナによる休校から始まり、人間関係づくりが上手くいかず、不登校の生徒が増えた。他人の目を気にする生徒も多い。学校では「いじめ調査」の結果により即座に組織対応してきたつもりだが、課題もある。忌憚のないご意見をいただきたい。よろしくお願いします。

2. 令和2年度の取り組みの報告と説明【生徒指導部長】

①年間活動報告

- ・休校により、日程変更をして行事を行った。
- ・学校独自のいじめ迷惑調査を行っていたが、県一斉メールでの統一「いじめアンケート」に変更となり、3回（6月・11月・1月）実施した。また、これとは別に同システムで「心のアンケート」も毎月実施した。コロナ感染等による不安な気持ちなどを聞いた。
- ・コロナ感染と体育館の改修工事により教育相談講話や情報モラル指導などは行うことができなかった。

②県一斉メールによる「いじめアンケート」対応および指導経過の報告

- ・入力ミスを含め8件、回答があった。いじめ事案の認知として即座に生徒指導委員会を開き、組織対応した。

【学年の様子・学年主任】

- ・1年生 いじめ調査ではなかったが、人間関係、不適応で登校できない生徒がいた。
- ・3年生 被害を回答した生徒も自由登校中ではあるが、毎日学習にきて頑張っている。

【教育相談室・担当】

- ・悩みを持った生徒も多く、年間を通してカウンセラーさんに助けていただいた。

3. 質疑応答

【児玉地域代表】

- ・ラインなどでのやり取りまで介入することは難しいが、アンケートに出てこない事案や問題についても気をつけていただきたい。

【堀部SC】

- ・悪質ないじめは良くない。
- ・第三者となる生徒からの報告は有難い。先生では把握しにくい部分のため、周りの生徒から情報が得られるのは貴重。

【木下弁護士】

- ・いじめに対して丁寧に初期の段階で対応してくださっている。（教員から）「言ってくれてありがとう」と、生徒が問題を言いやすい雰囲気を作っておくことが大切。

4. 指導・助言

【木下弁護士】

- ・アンケート後の対応の流れはどうしているか。
→教育相談を窓口として集約をし、その日のうちに生徒指導委員会で方針検討した。
生徒に聞き取りをした後、生徒指導委員会で再度対応検討をした。（生徒指導部長）

【堀部SC】

- ・ネット、SNSが関わるほど複雑化しやすい。生徒の意識も高いので12月の人権統一LHRのように、その使い方などについて学校から伝える機会を設けることが大切。

【児玉地域代表】

- ・先生方の対応が大変だと思った。
- ・言葉尻をとらえてしまう。怖気づくことなく、対応、指導していただきたい。頑張ってください。

【後藤保護者代表】

- ・1年間、委員をさせていただいて、色々な事例に触れ、知ることによっていろいろな方に見守られ育ててもらっていることを知った。感謝の気持ちである。
- ・現在、女子高校生の自殺が多い。見えないところで起きていることに親としても気づける見守りが大切。子どもには、経験を通して傷つくことを怖がらず成長してほしい。

5. その他

①「いじめ防止対策チェックシート」について、確認および承認

②令和3年度「いじめ防止基本方針」「組織」について

今年度、大幅に見直しをした。活動計画のみ変更し、この方針で継続していく。

6. 閉会あいさつ

鈴木 彰 校長

幸い、重大事案はない。しかし心の隙を作らないよう、これからもアンテナを高く張っていきたい。人間関係づくりが大切だと思っている。行事がその機会だと思っている。

本日は貴重な意見をいただき、感謝申し上げます。